

第8-1号

# 耕人

『耕人塾』

塾長 木村 民男

令和元年5月18日(土)

## 第8期 『耕人塾』で目指しているもの

震災1年後に発足した『耕人塾』も多くの皆様のご理解とご支援のお陰で第8期を迎えることができました。第7期までに150人以上の塾生が終了し、それぞれの進路で頑張っている姿を見ると頼もしく思います。今年度はこれまでの成果と反省を生かし、令和の年号にふさわしい飛躍の年にしたいと考えています。趣旨「石巻地域の中・高校生の『人間力』を磨き、地域社会に貢献する人材を育成し、併せて大学生や市民の学びの場にする」、テーマ「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」、実践事項「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」は前年度と同じです。今年度は「プロジェクトI」を中心に、焦点を絞った活動を継続し、その成果を発表する機会を設けたいと考えています。このような活動に取り込むコンセプト（基本的な考え方）として、今年度は「**主体・楽しさ・創造**」にしました。このことについて説明したいと思います。

「**主体**」:「主体」とは、自分の意志・判断・責任で行動しようとする態度のことです。塾生の皆さん一人ひとりが他からの指示や指導を待つのではなく、自分の置かれた場で何をしなければならないかを自ら判断し行動することです。それには自分の感性を磨き、自己の言動を工夫し、勇気を持って行動することが大切です。そのような行動は必ず自分の成長につながります。

「**楽しさ**」:「楽しさ」とは、心が満ち足りて愉快になることです。楽しさは他から与えられるだけではなく、自分から作り出す工夫が必要です。そのためには明るく笑顔で元気よく、礼儀正しいことが基本になります。塾生一人ひとりが楽しんで参加し、回りをも楽しくさせるためにはどうするかを考えて行動できるようになることを期待します。

「**創造**」:「創造」とは、これまでのやり方を踏襲するだけではなく、新たなものを作り出していくことです。今年度は、塾生の発想やアイデアも取り入れながら、柔軟に対応していきたいと考えています。また、他の団体とコラボレーション（共同・協力・連携）することにより、石巻地域に心の復興の大きなうねりを起こしていきたいと思っています。

『耕人塾』を充実発展させるための取り組みの一つとして、これまでの「指導委員」を「**教学委員**」に名称を改めました。理由は、塾生に一方的に指導するのではなく、指導者自身も教え方を工夫し共に学ぶ姿勢を大切にしようと考えたからです。また、石巻地域の中・高校の校長先生方には参与として運営等への助言を仰ぐことにしました。

今年度も石巻専修大学、宮城県教育委員会、石巻市・東松島市・女川町教育委員会、河北新報社、石巻日日新聞、石巻かほく、ラジオ石巻の後援をいただきました。また、『耕人塾』を支えてくれる組織として運営委員、教学委員（含む学生）、参与、協力員、ポーター等200名を超える方々が物心両面から協力してくれています。第8期『耕人塾』を「飛躍の年」と位置付け、楽しく充実した活動していきたいと思っています。よろしくお願い致します。

### 「志を立つ」(橋本左内「啓発録」から)

幕末の志士である橋本左内が、15歳(満14歳)の時に自分の生き方の指針として記した5か条が「啓発録」です。その中に「志を立つ」があります。左内は「**志とは、自分の生き方の決意を固めることである。志を立てるには、聖賢(せいけん)の教えや歴史の書物を読んで、その中から深く心に感じた部分を書き抜いて壁に貼り、いつもそれを眺めて自己を省みて、自分の足らぬところを努力することが大切である。そして、自分が少しずつ前進するのを楽しみとすることである。**」と記しています。「志」とは、自らの意志で自己を成長させ、地域社会に貢献していこうとする決意を固めることです。塾生の皆さんも各自の「志」を立て、今日から新たな自分をつくって行くために歩み出しましょう。皆さんがどのように成長するか楽しみです。